

大野一雄フェスティバル2011 関連プログラム

毎週末に行う公演プログラムに加え、展示、シンポジウム等を別途入場料なしで開催します。大野一雄フェスティバルは、作品を制作し発表するだけでなく、記録を残し、アーカイブ化することに注力してきました。今回も貴重なアーカイブ資料を展示し、またそれを活用するための議論を喚起します。

Kazuo Ohno Festival 2011

2011年9月30日(金)～10月30日(日) 新港ピア/新・港村劇場及び周辺地域

各公演：前売2,800円/当日3,300円 10月22日は前売1,000円/当日1,500円

新・港村パスポート、または、トリエンナーレ特別連携チケットをお持ちの方は300円引き、学生・シニア(60歳以上)券、500円割引(学生証等提示)
フェスティバルパスポート 10,000円 全公演観覧可。記名を頂く方ご本人のみ使用できます。

主催：大野一雄舞踏研究所、BankART 1929 共催：横浜市文化観光局 助成：平成23年度文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)※

協賛：香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、ANA 企画協力：横浜日仏学院(Institut franco-japonais à Yokohama) L'INSTITUT

平成23年度(第66回)文化庁芸術祭協賛公演※ 協力：慶應義塾大学アート・センター、PARC-国際舞台芸術交流センター、横浜光ボクシングジム

ダンスアーカイブ

期間 11月6日(日)まで 11:30~19:00 金曜日は21:00迄
場所 新・港村/Bゾーン 新・港村パスポートで観覧可

大野一雄舞踏研究所、慶應義塾大学アート・センター、PARC-国際舞台芸術交流センターが共同でダンスアーカイブ資料を展示します。各団体は、60年代以降の大量の作品映像等公演資料を整理、保管しています。今回はその中からごく一部を公開します。このたび展示する大野一雄の「ラ・アルヘンチーナ頌」は、撮影者であるビデオ・インフォメーション・センターのオリジナルテープをDVCAMにした、最も鮮明なデジタルマスターです。

展示作品

- 大野一雄「ラ・アルヘンチーナ頌」1977年初演(大野一雄舞踏研究所)・・・1
 - 土方巽「抱猪譚」1972年(慶應義塾大学アート・センター)・・・2
 - 笠井 叡「エーテル宇宙誌」1978年(PARC-国際舞台芸術交流センター)・・・3
- 協力 ビデオ・インフォメーション・センター(「ラ・アルヘンチーナ頌」と「エーテル宇宙誌」)



1 ©N.Ikegami 2 3 ©Teijiro Kamiyama

シンポジウム

ダンスアーカイブが存在する 実践家が語るアーカイブ運営

10/21(金) 19:30-21:00 場所:新・港村ホール 新・港村パスポートで観覧可

基調報告 | Jan Schmidt (New York Public Library for the Performing Arts キュレーター)
司会 | 森下隆 (慶應義塾大学アート・センター)
コメンテーター | 織田紘二 (国立劇場顧問) / 手塚一郎 (Video Information Center)

世界のあらゆるジャンルのダンス資料の宝庫である、ニューヨーク公共図書館舞踊部門から動画アーカイブ構築の専門学芸員ヤン・シュミット女史を迎え、ダンスアーカイブ運営の実際と、その現代的なアウトプットの課題について議論します。

New York Public Library for the Performing Arts, Jerome Robbins Dance Division

1944年にNew York Public Libraryの1部門として設立、世界最大且つ最も包括的なダンスアーカイブである。バレエ、民族舞踊、モダンダンスから社交ダンスまで、ダンスのあらゆる形式を歴史にとどめることにおいて、いわゆるライブラリーに止まらない機能を果たしている。それは、ある部分博物館でもあり、映像制作センターでもあり、またダンスに関するコンサルティング業務も行っている。広範な文書、画像、録音を収集することでダンスの歴史を保存し、アーカイブ記録を通して芸術形式の継続性を維持することを使命としている。ダンス関係の約42,000冊の蔵書があるが、これは全体の所有物の3%に過ぎない。他に無料閲覧できる資料に、動画、録音テープ、写真、新聞記事、プログラム、原稿、印刷物などがある。



Jan Schmidt | New York Public Library for the Performing Arts, Jerome Robbins Dance Division 学芸員。17年にわたり、ダンスアーカイブ記録動画の部門で、ダンスパフォーマンスのオリジナル資料を収集し、アーカイブ設立に寄与した。Dance Theater Workshop、ジェローム・ロビンス、ルドルフ・ヌレエフらのビデオアーカイブを収集整理し、収集、保管、公開を担当する他部門のキュレーターと共同でアーカイブ構築を行った。

織田 紘二 | 1945年北海道生まれ。1967年国立劇場芸能部制作室に入り、以来歌舞伎及び新派の制作・演出に携わる。国立劇場以外での演劇・舞踊の作・演出も多い。「聞き書松緑芸話」(講談社)や「三島由紀夫芝居日記」(中央公論社)の校訂、「歌舞伎入門」(淡交社)の監修、また編著に「新版歌祭文」(白水社)、「歌舞伎モノがたり」(淡交社)等がある。現在独立行政法人日本芸術文化振興会顧問。

手塚 一郎 | ビデオ・インフォメーション・センター (VIC)代表取締役。VICは、1972年に、国際基督教大学の学生によって、ビデオなど映像素材の情報センターとして設立。70年代から80年代にかけての舞台芸術作品を映像記録として膨大に撮影する。

公演アフタートーク

- 10/7(金)「新世界ワルツ」アオキ裕キ+新人H ゲスト: 桂 歌助(落語家)
- 10/15(土)「In Situ Yokohama」レジーヌ・ショピノと出演者
- 10/22(土)「砂漠の老人」藤本隆行+吉本大輔+白井剛+川口隆夫
- 10/28(金)「Journey」ダニー・ユン ゲスト: 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所 首席研究員)

シンポジウム

YANO ~ 矢野英征とはどのような人物だったか

10/1(土) 15:30-17:00 場所:新・港村ホール 新・港村パスポートで観覧可

基調報告 | 長谷川六 (舞踊評論) 司会 | バトリック・ドゥ・ヴォス (東大教授) コメンテーター | 三浦一壮 (プロデューサー)、カリス・サボルタ (振付家)(予定)
2008年5月フランス国立ダンスセンターから「YANO」と言う大部の書物が出版されました。「ヌーヴェルダンスの父」と慕われるYANO、即ち、矢野英征は1973年渡仏し、1988年に45歳の若さで逝去するまで、フランス舞踊史に深い足跡を残す仕事をしました。矢野作品「サロメ」に出演したカリス・サボルタの来日公演にあわせ、矢野英征の仕事と人生に光を当てます。

長谷川 六 | 1967年ダンスワーク創刊、編集長。朝日ジャーナル、アエラ、毎日新聞などに寄稿、NHKBSエンターテイメントニュースのコメンテーターを勤める。1988年ACCグランティ、1999年文化庁在外研修でヨーロッパ舞踊教育の調査。1997年PASダンス自由大学を設立。矢野英征とは波谷アピアの前衛パフォーマンス、モアチュ、矢来能楽堂、青年座など日本での初期からアヴィニョンの『鷹の井戸』最後の作品となったブザンソンでの『サロメ』まで取材した。

三浦一壮 | 1937年北朝鮮平壤に生まれる。1962年日本マイム研究所に入所。及川廣信、大野一雄、安堂信也等と出会う。1965年ケイタケイ、西森守とVAVを結成。「傾斜的存在」(音楽 一柳慧、小杉武久、美術 石井賢俊)を発表。1972年舞踏舎設立。ミシェル・レリス原作による「闘牛鑑」「獣道」(美術ワダエミ)を発表。1977年ナンシー演劇祭で「門」を上演。フランス、イタリアを巡演した。1979年にはローマで、エウジェニア・パルバ、グロトフスキーの国際ワークショップに招聘された。

バトリック・ドゥ・ヴォス | 東京大学大学院・総合文化研究科教授。専門はフランス演劇・舞台芸術理論。古典演劇から20世紀の舞台芸術一般まで、幅広いフィールドに関心を持ち、特に現在までのフランス演劇史においてモデルニテを問うてきた作品および演劇論・演劇批評、日本の古典演劇における身体、日本の60年代以降のダンス(特に「舞踏」とその世界的な進化)などを研究課題としている。

カリス・サボルタ | バス・ノルマンディーの首都カンの振付センターのディレクターを1988年から2004年まで務めた後、自らカンパニー・カリス・サボルタを立ち上げ、パリとサン・ドゥニに拠点を置く。ダンス作品だけでなく、マルチメディア、写真、短編映画等ビジュアルアート作品も制作。原始的なダンスと現代の先端的な身体表現を融合することに興味を抱いている。



矢野英征の舞台写真 写真:高島史於

シンポジウム

高井富子 形而情學を巡る旅 大野一雄と土方巽を師として

10/9(日) 14:00-15:30 場所:新・港村ホール 新・港村パスポートで観覧可

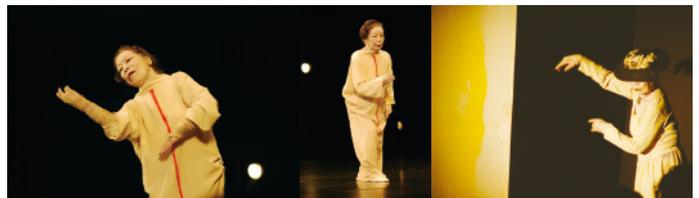
基調報告 | 森下隆 (慶應義塾大学アート・センター)
コメンテーター | 合田成男 (舞踊評論家)、中嶋 夏 (舞踏家)

去る5月28日、舞踏家高井富子さんが急逝しました。高井富子さんは、50年代に江口隆哉に入門し、その後大野一雄、土方巽に師事し、60年代の歴史的作品「形而情學」に登場しました。90年代以降も海外公演を単身で行い、また大野一雄フェスティバルにも3度参加しています。舞踏の歴史を体現していたと言っても過言でない高井富子の半世紀あまりにわたる活動を振り返ります。

森下 隆 | 1950年生まれ。1972年より、土方巽のアスベスト館にて舞台制作に携わる。出版社勤務を経て、1986年の土方巽の死後、土方巽記念資料館の設立と運営に参画。土方巽をめぐる展覧会やシンポジウム等の企画・構成を行う。現在、慶應義塾大学アート・センターに設置されている土方巽アーカイブを運営。慶應義塾大学非常勤講師。NPO法人舞踏創造資源代表理事。著書に『土方巽舞踏論の舞踏-記号の創造、方法の発見』、共編著に『土方巽の舞踏』。

合田成男 | 舞踊評論家。スポーツ紙の文化欄担当者として、1959年の「禁色」を見て以来、土方巽の舞踏を高く評価。「オンステージ」や「日本音楽新聞」にダンス批評を書き続け、貴重な時代の証言者となっている。たえず舞踏の最前線にあって、今日まで舞踏評論に携わる。

中嶋 夏 | 大野一雄、土方巽に師事。暗黒舞踏創立に関わる。1969年舞踏集団「霧舎舎」設立。1983年ロンドン国際演劇祭を皮切りに、現在まで多数の国際舞台に招待参加。またニューヨーク市立大学を始めとして各国の舞踊研究所にて舞踏を教授。1990年カナダ、モントリオール舞踊団「幽霊」振付で、カナダ・フェスティバル振付第1位、1991年全米パフォーマンス見本市年間特別アーティスト賞受賞、2009年メキシコ国立劇場依頼による演劇「テンペスト」演出、年間ベスト10入賞。1992年より知的障害者のダンス教育に関わる。



■お問い合わせ BankART1929 (新港ピア事務所)
TEL 045-228-8212 FAX 045-664-3353 ohnofes@bankart1929.com
「新・港村」公式サイト <http://shinminatomura.com/>
■アクセス 新港ピア 横浜市中区新港2-5
横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口「赤れんが倉庫口」徒歩約10分。